

| | |
|---------|--|
| 会議名称 | 令和4年度第2回平塚市スポーツ推進審議会 |
| 日時 | 令和4年(2022年)11月30日(水) 10時から11時10分まで |
| 会場 | 平塚市役所本館 6階 619会議室 |
| 委員数 | 15名 |
| 出席者 委員 | 13名 陶山正明、粟生光一、高橋佳久、傳田實、鈴木登喜雄、 高橋篤、野村泰弘、川崎登、畔柳豪、井上純一、 小林みゆき、岩井美由紀、村田節子 |
| 出席者 事務局 | 6名 吉野教育長、平井社会教育部長、佐野スポーツ課長、奥脇 課長代理、天瀬担当長、的場主任 |

1 あいさつ

陶山会長よりあいさつ

吉野教育長よりあいさつ

事務局より、委員の定数15名に対し、本日の出席者は13名であり、委員の出席が過半数を超えており、平塚市スポーツ推進審議会規則第4条の規定に基づき、本会議が成立している報告がされた。

事務局より、傍聴人はいない旨報告がされた。

2 議題

【報告事項】

(1) 令和4年度スポーツ課事業について

【事務局】

今年度のスポーツ課事業についてですが、前回7月11日に第1回審議会を開催した段階で、6月までに開催した市総体のトリムバレーボール大会競技と、囲碁ボール大会、こちらの方についてはすでに実施済みということで報告をさせていただいていました。予定されていましたスポーツイベントにつきましては概ね実施することができました。新型コロナにつきましてはいずれの事業もしっかり対策を講じた上での開催といたしております。基本的な対策が行われてきたかなということ。あと感覚的なところですが、スポーツ活動や地域活動されている方もコロナへの警戒意識というものが、落ち着いてきたのかなという感覚を受けています。スポーツのイベントにつきましては、その性質上講じるべき対策をきっちり押さえることで、スポーツができる環境が整ってきたと感じているところです。具体的に取り組んで参りました事業について資料に基づいてお話しします。まず7月です。

小学校のプール開放事業につきましては、中止となっております。続いて少年野球大会です。昨年度からコロナ対策、熱中症対策を講じながら実施していますので、昨年に引き続きの事業です。開会式を実施しない他、コロナ対策をした以外に、今年の夏は特に熱中症が厳しかったこともあるので、チームの主将が集まってくる、事前の代表者会議の場で熱中症対策を講座等も行いながらの実施となりました。残念ながら、大神グラウンドで試合をされていた選手が救急搬送されています。チーム数は昨年度と比較して5チーム減って36チーム514名ということで、全体的には参加者数が減っている状況でした。続いて8月です。少年少女水泳大会は令和元年度依頼の開催となりました。これまでと異なりまして、学校での取りまとめを依頼せず、直接市へ申し込む形での受け付けをしています。新型コロナウイルス感染対策として種目を絞って、参加者数を抑えたほか、観客席の指定等、厳しいコロナ対策の中での開催を、水泳協会の運営の中でやらせていただいたところです。参加者数を絞っているのだから参加者数は少なくなっています。次は9月です。市制90周年記念の新たな取り組みとしまして、SOMPOボールゲームフェスタを開催させていただきました。これはスポーツ協会と共催の事業です。日本トップリーグ連携機構という一流アスリートを擁する団体から講師を派遣していただいて、午前中は幼児と小学校低学年を対象に、それと保護者が一緒にボール運動する機会を提供するもの、午後については小学校中高学年の子供たちを対象に「バレーボール」「ラグビー」「サッカー」「バスケットボール」の各競技を、ローテーション制ですべての競技を体験するというような形で運営したもの、各競技についてアスリートが競技について教えると、その中で、ボールを使って身体を動かす喜び等、スポーツに触れる機会を提供したという事業です。続きまして10月、少年少女剣道大会、これも令和元年度以来の開催となりました。新型コロナウイルス対策をきっちり講じながら実施した事業です。参加者数は若干減となっております。続いてパラスポーツフェスタ、令和元年度以来の開催となり、障がい者と一緒に実施する中では、対策を講じることの難しさというのを常に意識しながらやってきた中で、久しぶりに実施した事業です。障がいがある方の参加を意識し、プロジェクターで音声を文字にして、スクリーンに投影、また、同時手話通訳等を配置して、事業実施しました。市内には日本ボッチャ協会の専任トレーナーがおり、ご縁があったので、今回その方に講演の講師をお願いしたいのと同時に、市長とのボッチャ対戦等の機会を提供させてもらったところです。参加者数についてはやはりちょっと減少傾向ということですが、このような事業については継続することに意義があると考えています。引き続きスポーツを通じた共生社会の推進する事業ということで、関係団体と協力しながら、今後さらに拡充を図っていきたくと考えています。同時開催でボッチャ競技大会も行いました。続いて10月から11月です。今回、夏から秋へと時期を移して初の市総体を開催させていただくことができました。視察にご出席いただいた皆様、ありがとうございます。調整、選手の派遣等、地区の体育振興会、新たな日程で大会運営を担っていただいたスポーツ協会の各種目協会の皆様のご理解、ご協力の賜物だと心から感謝申し上げます。来年度の開催時期については令和5年度の

施設要望時期にまもなく入ります。来年度以降も秋の開催をしたいと考えておりました、今後その日程で調整をさせていただこうと思います。開催時期を動かすこと以外にも、以前から参加者の少ない競技の扱いですとか、参加しやすい開催ルール等、市総体を今後継続していくための懸案事項というのがあります。こちらについては、体育振興連絡協議会、スポーツ協会と引き続き調整をしていきたいと考えています。続きまして、ねんりんピックかながわ ひらつか交流大会です。昨年度、実行委員会を発足しまして11月12、13、14日の3日間で開催しました。本日出席委員の中にも事前の準備から当日の運営に参加をいただきながら、無事開催することができました。誠にありがとうございました。12日は本市開催のスポーツウエルネス吹矢、囲碁の選手を歓迎する合同開式を式典という形で行いました。七夕太鼓、七夕踊りの披露、また岩崎由紀子さんによる君が代の独唱等、平塚市のアピールと歓迎の意を表しました。来賓には河野国務大臣もお越しになっております。13、14日は競技の大会と、イベントブースを設置しまして、選手以外にも多くの方に、会場を訪れてくださりました。風が強い等、いろいろありましたけれども、なんとか実施することができたと思います。こちら皆様のご協力あってのものと思っています。これまで実施した事業報告は終わりです。今後の予定としましては12月に大学交流フェスタとしまして、東海大学の皆様にご協力いただきながら中学生を対象とする「陸上競技」「バスケットボール」「バレーボール」の教室を大学内の施設をお借りして、開催させていただく予定で調整をしているところです。また、中学校部活動の先生方に選手派遣の関係で調整していただいております。1月市内駅伝競走大会、1月8日開催予定ですが、昨年度は結局実施できず、タイムを競う形で競技場での実施を検討しましたが、開催することはできませんでした。今年度については、公道を走る、例年どおりの開催を目指して準備します。そして、少年少女マラソン大会、これについては陸上競技協会に、また、小学生サッカー教室は神奈川大学にそれぞれお願いをする予定となっております。ひらつか市民スポーツフェスティバルにつきましては先日、各種スポーツ関係団体に意向確認をしたところ、ブースを出すお声をいただいているので、引き続き開催に向けて、まちづくり財団、それからスポーツ5団体と調整しながら進めていきたいと考えています。長くなりました。事務局からの説明は以上です。

【会長】

スポーツ協会の納会を2月に開催と書いてありますが、中止ですか。

【事務局】

実施すると伺っております。

【会長】

体育振興連絡協議会の60周年記念式典は、1月29日に開催するということですね。質問

等、皆さんから何かございますか。例年通りやっていただければありがたいですね。スポーツフェスティバルもやっていただけるということですから。市内一周駅伝について、制約が多少ありますか。駅伝については、中継所の密というのがどうしても避けられない。お連れいただく保護者の方もいらっしゃるので、そういった方や応援できる方を制限するということになりますね。補足でした。

【事務局】

対策する上では、各中継所に職員を配置して欲しいという要請が陸上競技協会からあり、みなさんと一緒に視察をしていただくのは厳しい状況になるかと思えます。しっかりした開会式ではなく、例えば関係者だけ降りてくるとか、そういうやり方を工夫しながら陸上競技協会と相談しているところです。

【委員】

ありがとうございます。

皆さんからご意見やご質問がなければ、次の議題にうつりますがよろしいですか。それでは続いて議題2の協議事項として、事務局から説明をお願いします。

【協議事項】

(1) 令和5年度スポーツ課事業及び予算の考え方について

【事務局】

まず、令和5年度の市の全庁的な予算編成上の留意事項をまとめています。

令和5年4月、統一地方選挙が予定されています。このような場合の予算は、人件費、施設や道路の維持管理に係る経費といった義務的な経費、協定などによって継続的に行っている政策的な経費等を中心とした、いわゆる骨格的な予算編成となります。ただし、計画的な行財政運営のため年間を通じた歳入・歳出予算のすべてを見込んだ形で、例年と変わらない予算要求を行います。続いて、当課の実施事業と予算編成の考え方です。スポーツ事業に関しては、オリンピックやパラリンピックなどのレガシーを意識し、スポーツを通じた共生社会の推進に資する取組と、これまで取り組んできました各種事業とのバランスに配慮しながら予算編成をします。一方、施設関係は、安心・安全で快適な施設利用ができるよう予算編成します。続いて、主な令和5年度の具体的な事業に係る予算の動きですが、スポーツ事業に関しては、様々な各種スポーツイベントに係る経費は概ね令和4年度と同額としています。「パラスポーツフェスタ」と「かながわ駅伝」の2次から1次予算への変更とは、あくまで内部手続き上の話ですが、当該2事業については、毎年定例的に開催するイベントとして、事業予算の位置付けを変更しています。

このほか、本市のスポーツ推進計画の改定にあたり、外部の有識者などで組織しますワーキンググループの報酬費を新たに計上します。

続いて施設担当です。施設担当にかかわる予算の動きということで説明させていただきます。施設担当は令和5年度の予算の動きといたしまして、指定管理委託料を含めた各種体育施設の、維持管理にかかる経費については例年の考え方で予算要求をしています。その他に幾つか追加で予算要求していますので紹介いたしますと、スポーツ施設活用事業について、現在小・中学校の夜間照明施設では、メタルブルイトランプという電球を使っています。このランプというのは、令和5年度中に製造終了となるメーカーがありまして、また昨今の状況を踏まえて、LED化を検討しております。以上です。

続いてスポーツ団体の補助金の交付状況は表のとおりです。スポーツ課の予算として、現在、3つの団体、2つの大会、サッカーに関する1事業に対して補助金を交付しております。令和5年度も同じ交付額で予算を計上する予定です。

令和5年度のスポーツ課事業と予算の考え方のご説明は以上です。よろしく願いいたします。

【会長】

今の議題につきまして各団体含めて、ご質問等ございましたら、挙手をお願いしたいと思えますけど。

【委員】

市内一周駅伝については、手当がないのですが、検討していただきたい。全市的な大会になりますので、地区体育振興会は選手を集める等しているので、市総体と同じような対応をしていただければと思います。それからこれから事業もあると思うのですが、先ほどの報告の中で、少年野球大会の開催が7月の下旬ということで、学校の関係もあろうかと思えます。大変猛暑になっていて熱中症の心配がある。開催時期を、検討されてはいかがかなと思います。春休みでもいいですし。

【委員】

ご意見がありましたけれども、同じように少年少女水泳大会が8月に開催されておりますが、熱中症の懸念もあるということで、時期がずらせるのであれば、ご検討いただけると助かります。

【会長】

少し予算も考えながら、事業実施日を検討してくださいとのご意見でよろしいですね。その他いかがでしょうか。

【委員】

レクリエーション連盟は前年と変わらないということで、補助金については、全市的な

事業等も現場として持っておらず、各団体ごとに、調整している状態ですので、このままで結構でございます。

【会長】

その他ご質問等もございましたら、いかがでございますか。特にございませんでしたら次の議題にうつります。学校関係は、よろしいですか。

【事務局】

学校活動を地域に移行していこうという話が国からきています。最終的には学校部活動は、平日に行い、やり方は地域に委ねます、という話になっています。学校現場を担当されています、教育指導課の先生方と一緒に国、県の進め方についての情報収集とともに、現場では実際にどういった形で部活動を考えていくべきか、今いろいろと調査をしていると伺っています。そして、お話いただいた通り、指導者の立場である皆様はどういった形で部活動に関わっていただくべきか、そういったすり合わせ等が今後必要と感じています。実際に平塚市では具体的なところが出てきてないのが現状ですので、ある程度、内容が見えてきたらみなさんに情報提供させていただきつつ、ご協力をいただく機会もあるかと思えます。その際にはお話をさせていただきますが、現段階ではお出しできる情報がないため、現状をお伝えさせていただきました。以上です。

【事務局】

私の方からは、他の3点のことについて少しお話をさせていただきたいと思えます。まず市内駅伝の件で、問い合わせがありました。まず、市総体については、選手の派遣について、交通費のような形で予算が組まれていると、市内駅伝についてはないということですが、確かに現状ではそのような形になります。来年度予算について、ここで方向性、考え方はお示しさせていただいたのですが、まず、第一段階として予算要求の一発目はもう出させていただいている中で、これから追加というのが、来年度については難しい状況でございます。その中で、再来年度以降に、何らか反映できるのかというところで、こちらもお考えさせていただければと思っております。また、少年野球大会についても、ご意見ございました。少年野球大会については、先ほど報告ありました通り、今回、第59回ということで、またお2人ばかり緊急搬送があったということで、その搬送は、確かに事実でございます。また、そういった熱中症の懸念というのは、この時期非常に厳しいものがあるかと思えます。そういった中で、参加していただける選手たちのことを考えながらということで、少年野球連盟、或いは中学校野球の関係者、そちらとお話をしながら進める形になるかと思えますけれども、小学校あたりですとやはり、春の大会、そして秋の大会、また、市の担っているのは夏の大会と呼ばれるもので、なかなか移行が難しいところもあろうかと思えます。そちらについても、連盟とお話を進めたいということと、その少

年野球大会自体が、先ほど申し上げた通り、来年第60回の記念大会ということになります。ですから来年について、同様な形でやらせていただきながら、またお話を聞きしながら、どの時期がいいのか、或いは本当に移行できるのかというお話をしながら、進めさせていただければと思っております。また、少年少女水泳大会の時期のこともございました。今のところ、参加者である小学生、今回については中学生を除いた形で、募集をさせていただいておりますが、その小学生が参加しやすいのがどの時期か。また、コロナの状況もありまので、それも含めて考えながら、調整をさせていただきたいと考えてございます。以上でございます。

【会長】

その他質問等よろしいですか。それではご意見いただくことがなければ、次の議題として、平塚市のスポーツ推進計画について事務局からご説明をいただきます。

【協議事項】

(2) 平塚市スポーツ推進計画について

【事務局】

現在の推進計画につきましては、今年度と来年度の2ヵ年で改定をします。スポーツ推進計画ということで一度中間見直しをかけましたけれども、期間は来年度いっぱいまでのため、改定をするものです。前回の策定時は市民向けにスポーツの実施状況や意識等、そういったものについてアンケートを取らせてもらっています。今回のアンケート実施時期は1月中ないし2月上旬から1ヶ月くらいというところで、これから作業に入ります。改定するにあたっての手順としましては、上位計画とのすり合わせ、スポーツを取り巻く環境の整理というのをする必要があるのであります。その中で、国としてどのようなスポーツの環境になっているのか、まとめて資料に書いてあります。平塚市にも当てはまってくるものになるので、見ていただくとわかりやすいかと思えます。新型コロナウイルス感染症が大きな影響を与えています。スポーツ活動が様々な形で制限されて、できないながら工夫してやっていくということが求められました。また、東京オリンピックとパラリンピックが終了しました。これをレガシーとして、意識する必要があるのではないかと。また、その他社会状況の変化ということでは、人口減少、高齢化の進行が挙げられます。少しずつ人口の割合が変わっていった中で、やはり高齢者人口が増えている。そういったことを意識しながら計画を立てていく必要があるだろうと考えております。その他社会状況の変化、地域格差について、DXなど急速な技術革新についてです。DXというのはデジタルトランスフォーメーションと言います。要は、技術革新によって様々な形でスポーツの関わり方が変わってきています。こういった技術を活用していくという話です。ライフスタイルの変化、持続可能な社会、共生社会への移行とこういった現状を踏まえて、楽しさ、喜び、自発性に基づき行われる本質的なスポーツその有する価値を目指そう、またスポーツ

を通じた地域活性化、健康増進など、健康長寿社会の実現、経済発展、国際理解の促進など、スポーツが社会活性化等に寄与する価値、こうしたことを高めていくことが計画には必要なんじゃないかと言っています。大きく言うと、幼少期、児童青年成人、高齢者等、各ステージで、すべてを網羅する運動機会をきっちり提供していく必要があるだろうということ書かれています。そしてトップアスリートを育成していく必要があります。やはりトップアスリートが育つ環境も整備しなくてはいけないように、そういったところに関連して、指導者育成が必要だということ。それから、施設を整備し、充実させていく必要があります。そして、これまでと変わってきておりますが、スポーツを通じた地域振興、まちづくりを意識しながら事業をする必要があるということ。ただスポーツイベントを開催するのではなく、こういった部分を意識する必要があります。そして、パラリンピックのレガシーとして、共生社会を実現すること。これを強く打ち出していくべきだということを、国・県は言っています。平塚市の強み、弱み、特徴等を振り返り、平塚市はどこを打ち出すべきか、平塚市はこれからどこを強みとするか、また、弱いところはどのようにしていくか考える必要があります。色々説明させていただきましたが、そのようなことを意識しつつ、来年度に向けてアンケートをとり、そして皆さんにご意見をいただきながら検討していきたいと考えております。説明は以上です。

【会長】

ワーキンググループなど、今後審議会の皆様にお世話になることが出てきます。その中でスポーツ推進計画改定の時期ということも含めて、国県市のそれぞれの指針的な部分で検討していくというお話でございました。ご質問その他ご意見いただけますか。難しい話だから少しずつ整理をしていくということで、どうですか。よろしいですか。それでは、3その他になります。事務局なにか議題ありますか。

【事務局】

特にありません。

【会長】

また、皆様方からなにかご質問、ご意見ありますか。特に質問等はないということであれば、終了となりますがいかがでしょうか。はい。それでは事務局にお返しします。ありがとうございました。

4 閉会